利用促進･コミュニティ交通部会における取組状況について

資料3

1. 利用促進事業　これまでの取組と他都市の事例

利用促進・コミュニティ交通部会委員からいただいた利用促進策の案について、これまでの取組や他都市の事例、今後の取組方針について整理した。

＜主な意見＞

・大人向け出前講座　・１日乗車券について　・商業施設との連携　・ラッピング車両の運行
・バスロケの使い方講習会　・横をつなぐバス路線の運行　・熊本駅でのバス路線図の設置　等

情報提供

①大人向けの出前講座　＋　バスロケの使い方講習会　短期



＜これまでの取組＞
・小学生向け出前講座（平成30年度実績：5校、376名）
・高齢者向け出前講座（平成30年度実績：3団体、48名）
・産太くんの乗り方教室（保育園・幼稚園対象）（産交バス）
＜他都市での事例＞
・愛媛県東温市：
幼児とその保護者を対象に「路線バス親子体験教室」を実施。



②熊本駅でのバス路線図設置　中期
＜これまでの取組＞
・バスガイドマップの作成、配布
＜他都市での事例＞
・青森県八戸市：主要駅構内に、周辺のＪＲ・バスの路線図を設置。

現在の取組の見直し、拡大
①出前講座の対象拡大、講座内容の見直し（バスロケ講習会を同時に実施）
②熊本駅でのバス案内策の検討

サービス向上

①商業施設との連携　中期
＜これまでの取組＞
・くまモンのＩＣカードでキャンペーン実施
100ポイントプレゼント、ポイント2倍（加盟店…約300店舗）
・交通券の発行（下通繁栄会）
＜他都市での事例＞
・沖縄県那覇市：バス・モノレールでの来店者に各商業施設で独自の特典・サービスを提供。



引用：くまモンのICカード公式ホームページより

②横をつなぐ路線の運行　長期
＜これまでの取組＞
・第一環状線　・八王寺環状線　・東ﾊﾞｲﾊﾟｽﾗｲﾅｰ　・ゆうゆうバス　等
＜他都市での事例＞
・合志市：レターバス、市内循環バス

現在の取組の見直し、広報の検討
①くまモンＩＣ加盟店拡大に向けた広報の検討
②バス路線網再編と併せ、地域のニーズや利用状況等を考慮し、検討

魅力向上

①ラッピング車両　中期
＜これまでの取組＞
・くまモンラッピング電車（熊本電鉄）
・車内装飾バス（産交バス）
＜他都市での事例＞
・福岡県大牟田市：
ジャー坊（公式キャラクター）バス運行




引用：佐賀市営バスブログより

②１日乗車券　短期
＜これまでの取組＞
・観光施設での利用割引制度
・ひごまるくん×くまモンデザイン
＜他都市での事例＞
・福島県：
「バス・鉄道利用促進デー」限定の１日乗車券を発行



③スタンプラリー（シールラリー）　短期
＜これまでの取組＞
・くまモンのラッピング電車わくわくスタンプラリー（熊本電鉄）
＜他都市での事例＞
・福岡県北九州市：
ハローキティスタンプラリーを開催。バスでチェックポイントをめぐり、スタンプを集めてコラボグッズをプレゼント。ハローキティラッピングバス、１日乗車券もコラボ。



現在の取組の見直し、新規取組の検討
①熊本に所縁のあるキャラクターとのコラボや企業とのタイアップ等の検討
②利用実態に合わせた１日乗車券の制度の見直し
③利用促進キャンペーン

画像引用：バス会社各社ホームページより

来年度以降の取組について

・バスロケーションシステムの導入
・バスの行先案内記号の改善　} 利用者への周知、広報活動
・これまでの取組の見直し、拡大、新規取組の検討

利用促進・コミュニティ交通部会における取組状況について

2. 路線別利用促進事業

バス事業者別に選定した特定路線の沿線地域において、停留所別のバスの時刻表やバスの乗り方などについて、きめ細やかな情報提供をし、利用促進をはかる。



	アンケート	地域への取組	利用者数	利用者の意識の変化
九州産交バス	○	地域活動団体にてヒアリングを実施	対象停留所の乗降人数の合計が**若干増加**	配布後のヒアリングより、**バスの利用意向**を示した
産交バス	–	自治会の会合にてバスの状況や配布物について説明	対象路線の便当り輸送人員が**増加**	–
熊本電鉄バス	○	–	対象停留所の乗降人数の対前年比が、減少傾向から**増加**へ	現在バスを利用していない人の内**９割以上が利用意向**を示した
熊本バス	○	–	対象路線の便当り輸送人員が**増加**	**９割以上**の方が**バスの利用意向**を示した
熊本都市バス	–	–	対象停留所の平均利用者人数が平日は変化がなかったが**土・日祝で増加**	–

バス利用者の減少が続いているなか、利用促進に取り組んだ路線については利用者が増加しており、今後もこのような取組を続けることで更なる効果が期待できる。

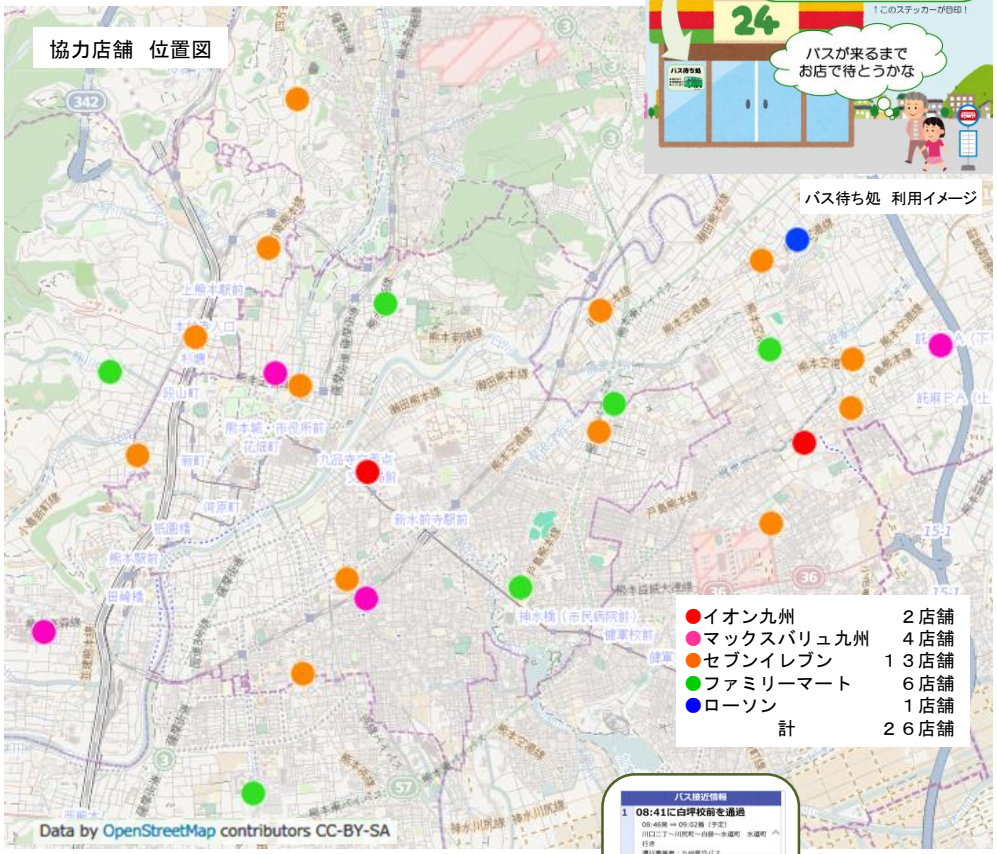
3. バス待合環境改善事業「バス待ち処」

バス停と近接するスーパーマーケット、コンビニエンスストアと連携し、イートインスペースの活用や時刻表の掲示等により、バスを快適に待つための環境整備を行うもの。

平成30年10月1日から事業を開始し、現在26店舗がバス待ち処として指定されている。



バス待ち処　利用イメージ



イオン九州	２店舗
マックスバリュ九州	４店舗
セブンイレブン	１３店舗
ファミリーマート	６店舗
ローソン	１店舗
計	２６店舗

- ４月に導入予定のバスロケーションシステムにより、スマートフォン等でバスの運行情報等が確認が可能となる

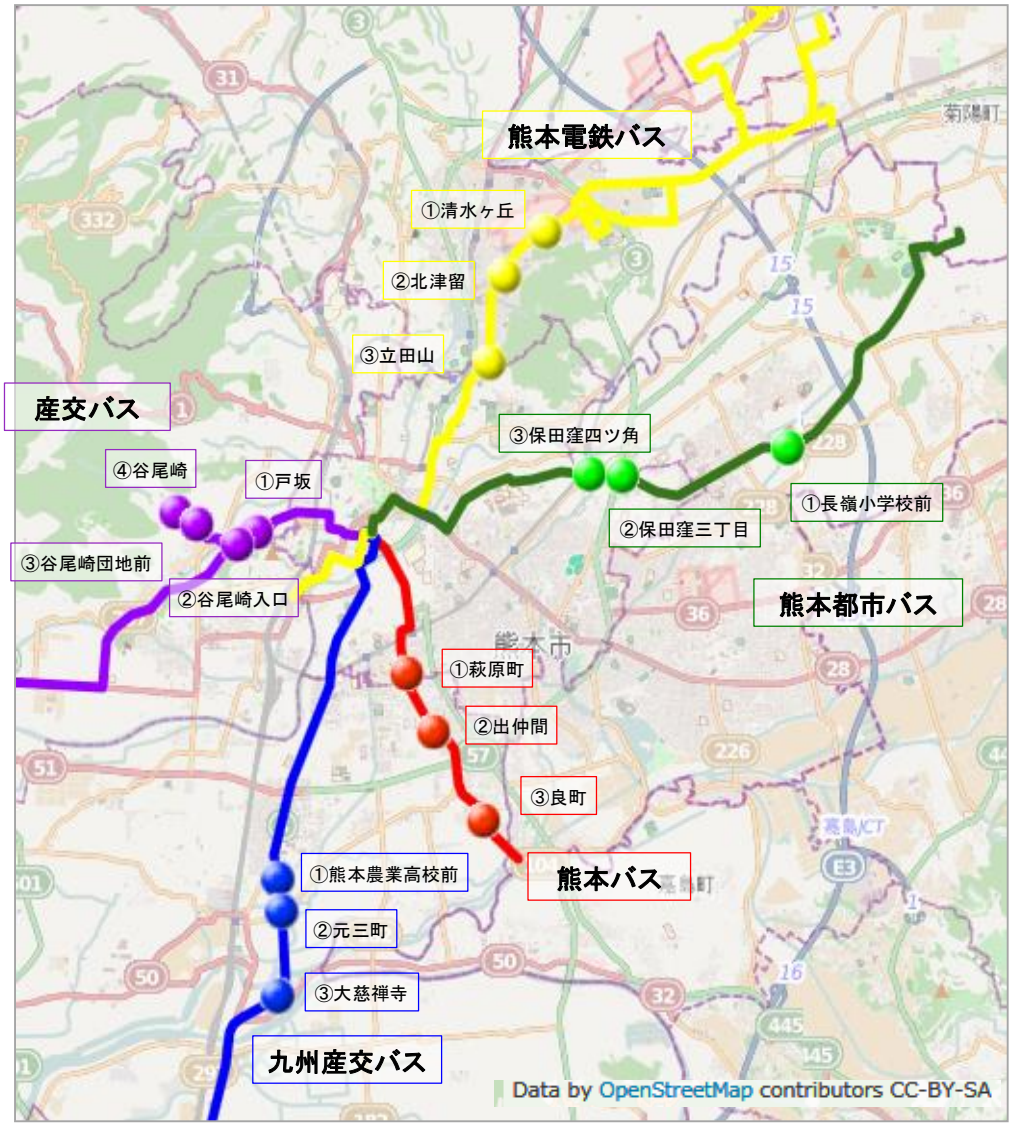
→ **更なる拡大を検討**



利用促進･コミュニティ交通部会における取組状況について　路線別利用促進事業　各社での取組　（参考資料）

○事業概要
　バス事業者別に選定した特定路線の沿線地域において、停留所別のバスの時刻表やバスの乗り方などについて、きめ細やかな情報提供をし、利用促進をはかる。

○対象路線



九州産交バス

1．実施状況

（1）路線及び停留所
　川尻バイパス経由センター松橋線　①熊本農業高校前　②元三町　③大慈禅寺

（2）路線選定理由
　年々輸送人員が減少しており、一部ではJRと競合しているが、今回の対象停留所はJR最寄駅から比較的離れており、一定の利用促進効果が見込めると判断したため。

（3）配布物
　・折り畳み式時刻表
　・利用促進チラシ（共通）　　各2,290部

（4）配布方法
　いきいきサロンなどの、地元活動団体の会合にてアンケートを用いてヒアリングを行い、地域の方のバスに対する意見を聴取した。その後、自治会を通じて各戸に配布。
　〔ヒアリング実施状況〕
　9月3日（月）川尻14町内　いきいき百歳体操
　9月5日（水）川尻10町内　いきいき百歳体操
　9月7日（金）城南２町内　いきいきサロン

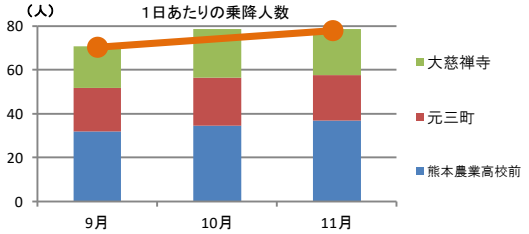


ヒアリング状況

※その他の自治会については、自治会長に個別でヒアリングを実施

2．効果測定

対象停留所及び対象路線における輸送人員の検証
対象バス停におけるくまモンのＩＣカードの乗降データを確認。



事業実施後のヒアリングでの主な意見
- バスが時刻表どおりに来ない
- 川尻市道経由とバイパス経由両方の時刻表が載せてあり、便利だった
- 時刻表の文字をもう少し大きくしてほしい

＜バス事業者の考察＞
- 時刻表の配布を開始した10月以降、対象バス停の乗降人数が配布前と比較して増加しており、一定の効果を確認することができた。
- バスに関する様々な情報を掲載した時刻表を配布したが、時刻表以外については情報がうまく伝わっていなかったため、配布物の内容については検討の余地がある。

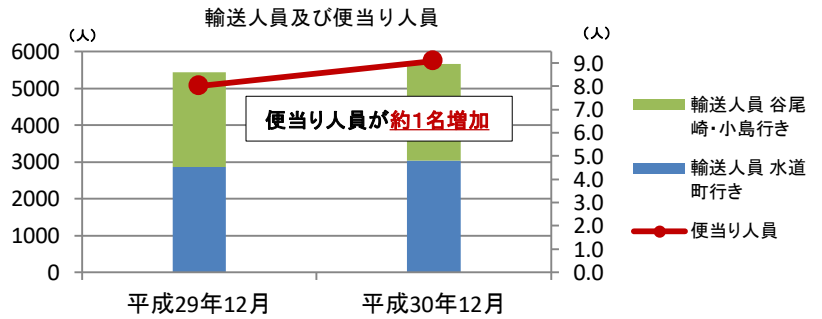
利用促進・コミュニティ交通部会における取組状況について　路線別利用促進事業　各社での取組　（参考資料）

産交バス

1．実施状況
（1）路線及び停留所
谷尾崎線　①戸坂　②谷尾崎入口　③谷尾崎団地前　④谷尾崎
（2）路線選定理由
利用者が多い路線であり、高齢者をターゲットに、バスに関する基本情報を提供し、バス利用の不安を解消することを目的として選定。
（3）配布物
・折り畳み式時刻表
・利用促進チラシ（共通）　各560部
（4）配布方法
自治会を通じて配布（平成30年12月配布）
池上校区第1町内自治会（戸坂地区）　60部
池上校区第2町内自治会（谷尾崎地区）　500部
10月21日（日）、11月29日（木）　役員会出席

2．効果測定
対象路線の輸送人員及び便当り人員を前年同月と比較。

		輸送人員（人）	運行回数
平成29年12月	水道町行き	2,868	348
	谷尾崎・小島行き	2,566	330
平成30年12月	水道町行き	3,035	320
	谷尾崎・小島行き	2,630	303



※２月開催の役員会に出席し、実施後のヒアリングを行う予定。

＜バス事業者の考察＞
- 対象路線の輸送人員について、前年同月と比較したところ、便あたり１名の増加が見られた。２月実施予定のヒアリング結果も参考に、今後の取組について検討していきたい。

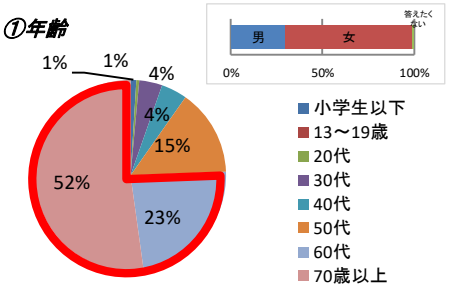
熊本電鉄バス

1．実施状況
（1）路線及び停留所
清水ヶ丘線　①清水ヶ丘　②北津留　③立田山
（2）路線選定理由
現状における利用率が多い路線のため。
（3）配布物
・通過時刻表（平・土・日祝）
・利用促進チラシ
・利用促進チラシ（共通）
・ご利用ガイドマップ
・アンケート
　} 各3,000部
（4）配布方法
職員によるポスティング


ポスティング状況

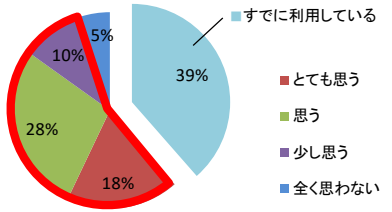
2．効果測定
（1）アンケート結果の分析

①年齢



→ 回答者の約７割が６０代以上

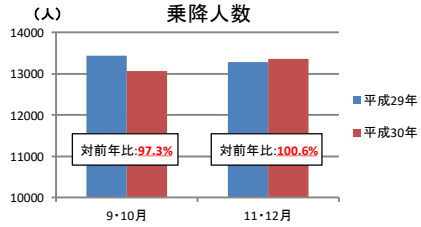
②今後バスを利用してみようと思うか



→ 現在バスを利用していない人の内、９割以上が利用意向を示している

③路線バスについての要望（主な意見のみ抽出）
- バスの遅れについて
- 運転手の接遇について
- バスロケーションシステムの導入
- 低床バスの導入
- バスの運行本数について
- 良い意見（感謝など）

（2）輸送人員の変化について
対象３停留所の乗降人数について、　対前年比を比較したところ、時刻表配布前の2ヶ月間（9・10月）では97.3%だったのに対し、配布後の2ヶ月間（11・12月）では100.6%となり、輸送人員が減少傾向から増加に転じている。



＜バス事業者の考察＞
- 上記のように、時刻表配布の効果が見られた。また、チラシの内容（深夜バス等）に関して「今回、初めて知った」との意見もあり、周知に繋がったと思われる。

利用促進・コミュニティ交通部会における取組状況について　路線別利用促進事業　各社での取組　（参考資料）

熊本バス

1．実施状況

（1）路線及び停留所

田迎線　①萩原　②出仲間　③良町

（2）路線選定理由

住宅が多く、運行本数も多いため、新規利用に繋げやすいと判断した。

（3）配布物

・折り畳み式時刻表　3,000部
・利用促進チラシ（共通）　3,000部
・アンケート　300部

（4）配布方法

職員によるポスティング



ポスティング状況

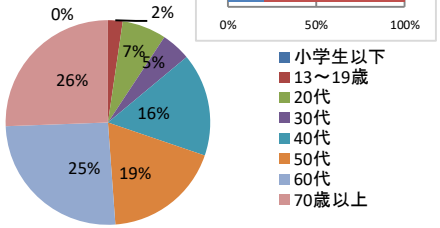


配布物の封入状況

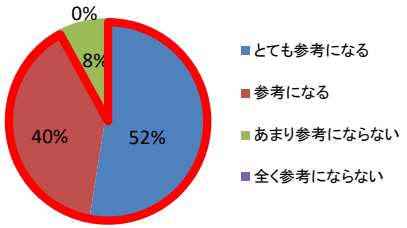
2．効果測定

（1）アンケート結果の分析

①年齢



②今回配布した資料は参考になったか



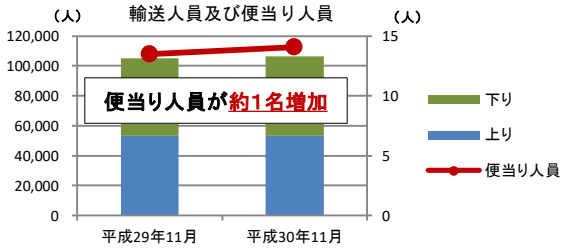
→ ９割以上が今回配布した資料を「参考になる」と回答しており、バス利用のきっかけになったことが期待できる。

③自由意見（主な意見のみ抽出）

・バスの遅れについて
・バスの運賃について
・路線の運行経路について
・バスロケーションシステムの導入
・運転手の接遇について
・良い意見（感謝など）

（2）輸送人員の変化について

● 前年同月と比較し、対象の３停留所を通過する系統の１便当りの輸送人員が、約１名増加している。



＜バス事業者の考察＞

● 上記のように、時刻表配布の効果が見られた。
● アンケートでは、９割以上が「今後バスを利用してみようと思う」と回答しており、バスに対する意識の変化があったと考えられる。

熊本都市バス

1．実施状況

（1）路線及び停留所

渡鹿長嶺線　①長嶺小学校前　②保田窪三丁目　③保田窪四ツ角

（2）路線選定理由

今後の利用者の伸びが期待でき、力を入れたい路線のため。

（3）配布物

・折り畳み式時刻表
・案内文　各3,000部
・利用促進チラシ（共通）

（4）配布方法

委託業者によるポスティング



配布物一式

2．効果測定

ポスティング前後での利用人数を比較した。

①実施要領

平成30年11月15・16日両日で３停留所近辺に時刻表のポスティングを実施。

②利用人数の比較結果

今回対象の３停留所とその他停留所で利用人数を比較。

ⅰ）その他停留所合計の平均値を比較

前半			後半			増加人数		
平日	土曜	日祝	平日	土曜	日祝	平日	土曜	日祝
1,434	954	648	1,494	957	680	60	3	32
						104.2%	100.3%	104.9%

← 自然増加率

ⅱ）３停留所の平均値を比較

前半			後半			増加人数		
平日	土曜	日祝	平日	土曜	日祝	平日	土曜	日祝
372	223	146	387	260	167	15	37	21
						104.0%	116.4%	114.1%

ポスティングによる増加人数

平日	土曜	日祝
1	36	14

※自然増加率を加味して算出

③費用面での分析

ⅰ）利用促進にかかった費用

内容	単価	数量	金額
時刻表版下作成	100,000	3	300,000
時刻表印刷	13	3,000	39,600
ポスティング作業	15.5	3,000	46,500
封筒	6.1	3,000	18,300
案内文印刷	2.35	3,000	7,050
合　計			411,450

ⅱ）得られた効果（試算）

対象路線の路線支払単価：200円
平均増加人数×路線支払単価
・平日…　＝　0円
・土曜…36人×200円×4.33日＝31,176円
・日祝…14人×200円×5.83日＝16,324円
→ **合計　47,500円/月**

411,450/47,500＝8.66≒9ヶ月
よって、費用合計に対して
約9ヶ月程度で回収できる見込み。

＜バス事業者の考察＞

● 今回のポスティングにより一定の利用者増加が確認できた。今後、他の路線でも定期的に実施することで、利用者増加の一助となると考えられる。

利用促進・コミュニティ交通部会における取組状況について

1. ゆうゆうバスについて

(1)平成30年度の取組について

①道の駅すいかの里への延伸(約1km)
乗降で334人が利用(全乗降者数の1.3%)※注)

②バス停の新設(大和五町内)
乗降で804人が利用(全乗降者数の3.23%※注)
※注)平成31年2月現在



▲地域の乗車イベントの状況

③その他の利用促進
・自治会等での周知広報。 ・地域活動に合わせた乗車ｲﾍﾞﾝﾄの実施
・「道の駅すいかの里　植木」のコーヒー無料サービス券の配布。

(2)平成30年度の利用実績について

・各種取組の結果、平成29年度に比べ微増
対前年比101.3%(平成31年2月現在)

植木循環ルート	H26 (1日7便)	H27 (1日8便)	H28 (1日8便)	H29 (1日8便)	H30(~2月) (1日8便)
利用者数	12,607人	13,011人	13,645人	13,531人	12,465人
1便あたり	7.4人	6.7人	7.0人	6.9人	7.0人
平均乗車密度	2.35人	1.86人	2.16人	2.11人	2.13人

▲利用実績H26～H30

(3)平成31年度の運行について

・平成29年度は平均乗車密度2.11人であり、運行継続基準の平均乗車密度1.5人以上を満足し平成31年度も運行継続。

2. 公共交通空白地域対応等コミュニティ交通について

(1)平成30年度の取組について

・比較的利用の多い路線の運行協議会と意見交換を行い、利用促進に効果的な取組の共有を実施。

(2)意見交換の結果

①運行協議会の取組
・運行協議会による集会等での利用呼びかけを継続的に実施。

②課題
・新規利用者が少ない。
・路線図や時刻表にわかりにくい部分がある。

(3)新たな利用促進策

・意見交換の結果を踏まえ、以下の利用促進策を3路線で試験的に導入。
(モデル路線:ほたる号、サンサン号、2・7ふれあいタクシー)

①地域集会での利用呼びかけと乗り方講座の実施

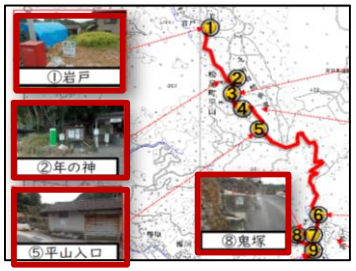
・継続的な利用呼びかけに加え、乗り方講座であらためて使い方、料金等を周知



▲乗り方講座での説明資料(抜粋)

②既存路線図の改善

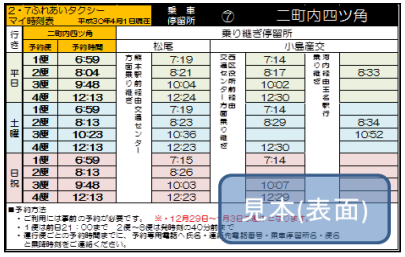
・停留所の写真をあわせて掲載し乗降可能位置を分かりやすく改善。
・利点
・乗降可能位置の把握が容易。
・特に、自宅近隣以外の把握に便利。



▲停留所の写真入り路線図(抜粋)

③マイ時刻表の作成

・自宅最寄とﾊﾞｽ・鉄道等に接続する停留所のﾀﾞｲﾔをｺﾝﾊﾟｸﾄにまとめ。
・利点
・既存の時刻表より小さく、外出時に携帯可。
・特に、帰りの便等の予約に便利。



▲マイ時刻表(抜粋)

3. 今後の取り組みについて

(1)ゆうゆうバス

・継続的な利用促進活動を行い利便性の向上を図る。

(2)公共交通空白地域対応等コミュニティ交通

①新たな利用促進策をモデル路線で実施し改善を加えながら順次拡大。

②公共交通空白地域等で、交通手段の確保が必要な地域への導入を推進

(3)区役所との連携

・区役所、まちづくりセンターと協力し、運行ルートやダイヤ等について、地域のニーズに対応し改善を図る。